史跡クラブ活動報告
2017年（平成29年）5月13日（土）発行
NO. 12

江戸時代へタイムスリップ

深川江戸資料館・芭蕉記念館・中川舟番所資料館をめぐる

"江戸情緒"のこる 深川散策

真夏の暑さ感じる5月12日(金)、9時15分。大宮駅コンコースには史跡クラブのメンバー7人が集まった。今回の"史跡めぐり"は大都会・東京にあって、江戸情緒の残る江東区深川の「深川江戸資料館」、「芭蕉記念館」、「中川舟番所資料館」の3か所。終了して、大宮駅に到着したのが18時頃になったが、有意義な一日を過ごすことができた。また、お昼の「深川めし」は評判どおり美味だった。

深川というところは…

みなさんは"深川"という地名を目にして何を連想しますか？この地域は、3代将軍徳川家光の時代から富岡八幡宮の門前町として発達。その後に、町民に多くの犠牲者を出した明暦の大火に見舞われた町でもある。木場が置かれて商業開港地域となり、深川岡場所が設置され、花街にもなった。深川は江戸の辰巳の方角にあるので、芸者は辰巳芸者と呼ばれ、粋で気風が良いと評判になった。現代は深川めしが東京駅の駅弁メニューに登場して以来、脚光を浴びるようになっている。

東京都江東区　深川江戸資料館

庶民の暮らしを再現

深川江戸資料館

1986年11月。ここ、深川の街に、地下1階から地上2階にわたる高い吹き抜けの深川江戸資料館が建設された。

資料館は、江戸時代末期の、天保年間頃の深川佐賀町の町並みを想定復元している。

館内の町並みは、表通りの大店と白壁の土蔵、船宿の佇まい、そして猪牙舟（ちょきぶね）の浮かぶ掘割には火の見やぐらが影を落とす。一歩路地を入れば、深川の木場材木問屋、米問屋、干鰯（ほしか）・魚油を扱う問屋が建つ。また、井戸と共同便所、ゴミ溜め、お稲荷さんがある長屋、よしず張りの「水茶屋」。そばには、天ぷらの床店と二八そばの屋台もある。長屋には、それぞれの家族の生活があり、そのなかの一家族の部屋には夫婦二人分の箱膳と女房の化粧道具等などが設えてある。

そこに住む庶民の息づかいが感じとれ、まるで、江戸時代にタイムスリップしたような錯覚におちいる。

東京都江東区　芭蕉記念館

しばし…俳句の世界に導かれる

芭蕉記念館

「芭蕉記念館」は松尾芭蕉の業績を広く紹介するため、1981年4月に東京都江東区が松尾芭蕉ゆかりの地、深川に開館した。

館内には芭蕉が着用していた袈裟（想像物）や、直筆の字が書かれた書物など、江戸時代に活躍した俳人・松尾芭蕉に関する資料が展示されている。また、敷地内の庭園には芭蕉の俳句にちなんだ草木や花が植えられている。

街道の関所ならぬ船の関所

中川船番所資料館

「中川船番所資料館」は、江戸時代に設置された中川船番所を再現している。小名木川を通る船の取り締まりを行った中川番所跡の北側に建てられ、番所の一部をジオラマで再現したり、水運に関する資料を展示している。

◆資料館をめぐって◆

参加者の感想です

●ボランティアガイドの説明で町並みを回ることができて、よく理解できた。（O）

●江戸で暮らす人々には寛容の心があり、喧嘩も少なく、物がなければ分かち合うなど、助け合って生きていた。（I）

●堀割りに水を引き、そこに船を浮かべるなど、良く工夫されていて見応えがあった。（S）

●どこの家にも神棚があり、縁起を大事にしていた。（K）

＊お願い　送信者から、みなさん宛に送信があった場合は、必ず受信確認メールを、送信者にメール返信しましょう。